

死は破壊され、生はよみがえ る

「神は彼らの目から涙をことごとく拭い去り、死も悲しみも泣きも苦しみもなくなる。これらすべてのものは永遠になくなる。そして、御座に座っておられる方が言われた。そして私に言われた。"これを書き記しなさい。私があるがために告げることは、信頼に足る真実なのだから。"

黙示録21:4と5

この時期、世界中の何百万人もの人々の心は、イエスの死からの復活というテーマに向けられている。これらの人々にとって、イエスの復活を記念することは、ある程度は、世界が暗黒と絶望の状態にあることを示す、混沌、破壊、死の日々のニュースから、束の間の救いとなる。

今日、世界中で毎日約**15万人**が亡くなっていると推定されている。これらの死の多くは、人類がすべて罪に呪われた滅びゆく種族の一員であるという事実の結果である。(ローマ**5:12** ; 1コリント**15:22**)。しかし、戦争、革命、事故、犯罪、麻薬、その他過去から現在に至る特定の悪に起因する悲劇的な死もある。それは確かに悲しみと涙の夜であるが、私たちには**"喜びは朝に来る"**という神の御言葉の祝福された保証がある。(詩篇**30:5**)。その祝福された喜びの朝は、**"義の太陽"**の昇天によって迎えられる。**"義の太陽"**は、**"癒しを翼に抱いて"**人々の肉体的、その他の病を癒し、平和と健康と永遠の命を与える。

私たちを取り囲み、苦しめている混乱と死にもかかわらず、私たちには、神が人間の問題に介入し、自分たちではできないことを人々のためにして下さるといふ神の御言葉の保証がある。つまり、聖書が人間の世界に示す希望は、神の約束と同じくらい明るいものなのだ。これらの約束は、現在人類を苦しめている他のすべての悪と同様に、病と死が滅ぼされることを保証しているだけでなく、死の中に眠っている人々が、目覚めさせられ、その新しい日

の喜び、すなわち現在の悲しみの暗夜に続く喜びの朝に参加できることを保証している。

神が御言葉に記された素晴らしい約束をすべて果たすことができるのか、という疑問が多くの人々の心に浮かぶ。問題を単純化しすぎているように思われるかもしれないが、私たちにとっては、生命を創造された方が、生命を回復する能力を豊かに持っておられることは明らかである。さらに、このことを私たちに確信させるために、主はご自分のしもべたちを通して、命を与える力を用いて死者を生き返らせた例を、聖書の中で数多く挙げておられる。これらの例は、死の中で眠っているすべての人間のために、神の目的を示すしるしと考えることができる。旧約聖書の時代に起こった例もあれば、イエスの時代、イエスの宣教に関連して起こった例もある。

やもめのこ

預言者エリヤは、やもめの息子を死からよみがえらせ、創造主、生命を回復させる力を示した。記録によれば、エリヤは「三度その子の上に身を伸ばし、主に向かって叫んだ。主はエリヤの声に耳を傾

けられた。すると、その子のいのちが再びその子のうちに宿り、その子はよみがえった。エリヤはその子連れて、上の部屋から家の中に下ろし、その母に引き渡した。エリヤは言った、"ほら、あなたの子は生きています"。列王記上17:21-23

この記述の翻訳で「魂」という言葉が使われているのは、人間は魂と呼ばれる無形のものを持っていて、肉体が死ぬとその魂は抜け出してしまおうという誤った考えを立証するものではない。引用した訳文にあるように、この例では、聖書でよく使われるように、魂という言葉は単に生命を表す言葉として使われている。エリヤの働きによって、そして神の力によって、この少年の命は彼のもとを去ったのである。

この記述で重要なのは、神の回復の力が全地にわたって、また、戦争であれ、病気であれ、若い時であれ、老年期であれ、死によって眠りについてしまったすべての人のために、その力を現すであろうという例を、私たちがこの記述の中に持っているということである。モーセは、祈りの中で神についてこ

う言った。"あなたは人を塵に帰し、「人の子らよ、帰れ」と言われる"。詩篇90:3

目覚めたシュナム人の息子

シュナム人の女と、おそらく日射病のために死んだ彼女の息子の話は、聖書を読む人にはよく知られている。(列王記下4:18-20)。息子が死んだとき、母親はエリシャを呼び、エリシャは息子を生き返らせた。その記録にはこうある：「エリシャが到着すると、その子は確かに死んでおり、預言者の寝台の上に横たわっていた。エリシャは一人で中に入り、戸を閉めて主に祈った。そして、その子の体の上に横たわり、口をその子の口の上に、目をその子の目の上に、手をその子の手の上に置いた。すると、その子の体が再び温かくなってきた！エリシャは立ち上がり、部屋を一往復してから、再びその子の上に体を伸ばした。すると、その子は七回くしゃみをし、目を開けた！それからエリシャはゲハジを呼んだ。「その子の母親を呼びなさい！」と彼は言った。そして彼女が入って来ると、エリシャは言った。

命ある限り、希望はある”。しかし、この限定は神には当てはまらない。神の約束によれば、また神の御言葉に示された証拠によれば、死んだ者すべてに希望がある。確かに、エリヤとエリシャの時代には、死者の一般的な回復の時はまだ来ていなかった。使徒ペテロが"万物の復帰の時"と表現したように、それはまだ達成されていない。(使徒3:20と21)。神の古代の預言者たちによって生き返った二人の少年は、後年、再び死に戻ったが、来るべき回復の時にはそうではない。そのとき、死んだすべての人が死者の中からよみがえり、永遠に生きる機会を与えられることが、神の目的なのだ。ヨハネ5:28-29、ローマ5:18-19

新約聖書

イエスの働きによって、他の人々が死の眠りから目覚めた。彼が村の門に近づくと、葬列が出てきた。死んだ若者はやもめの一人息子で、村から大勢の人が来ていた。主は彼女を見ると、憐れみで胸がいっぱいになった。「泣くな！」と言われた。そして、棺に近づき、棺に触れると、担ぎ手たちは立ち止まった。「青年よ、起きなさい。すると死んだ少年

は立ち上がり、話し始めた！そして、イエスは彼を母親に返された。"ルカ7:12-15

会堂の支配者の娘の場合もあった。人々は泣き悲しんでいた」。しかしイエスは言われた。しかし、群衆は皆、彼女が死んだことを知っていたので、彼を笑った。するとイエスは彼女の手を取り、大声で言われた。その瞬間、彼女のいのち（ギリシャ語では息）が戻り、すぐに立ち上がった！そしてイエスは、何か食べ物を与えるように言われた。両親は圧倒されたが、イエスは、このことを誰にも言わないようにと言われた。ルカ8:52-56

ラザルスも

マルタとマリアの兄弟であるラザロの典型的なケースもある。このベタニヤの小さな家族は、イエスの特別な友人だった。ラザロ、イエスがベタニヤから少し離れた洗礼者ヨハネが洗礼を授けていた地域で伝道を行っていた時に、重い病気にかかった。(ヨハネ10:40)。姉妹たちはイエスのもとに使いを送り、弟の病気を告げたが、イエスは数日間、そのことについて何もしなかった。イエスは弟子たちに

、「ラザロの病気は死で終わるのではない。そうではなく、神の栄光のために起こったのである。ヨハネ11:4

イエスはもちろん、ラザロが病に倒れ、眠りについて死ぬことを知っておられた。ラザロが死んだとき、イエスは弟子たちに言われた。"わたしたちの友ラザロは眠っている。(11節)。弟子たちはイエスの言葉の意味を理解できず、ラザロがただ静かに眠っているのだと思っていた。あなたがたのためにも、私がおの場になくてよかったと思う。さあ、彼に会いに行きましょう」 14節と15節

ラザロは確かに死んでおり、イエスはそのことに言及する際、死の象徴として眠りを用いた。眠りからは目覚めがあり、イエスは、全人類の死んだ世界が、神のあるべき時に死の眠りから目覚めることを知っておられた。主人はベタニヤに戻り、マルタとマリアの家に行かれた。マルタは主人を見て言った、「主よ、あなたさえここにいてくだされば、私の兄弟は死なずに済んだのです。主よ、あなたがここにいてくだされば、私の兄弟は死なずに済んだのです。(ヨハネ11:21-22)。これは、イエスがもつ

と早く到着していれば、弟を癒すことができたであろうというマルタの信念を示す方法であったが、それ以上に、イエスは今、弟を生き返らせることができるという彼女の信念を示すものであった。

イエスはそのつもりだった。イエスはマルタに、"あなたの兄弟はよみがえる"と言われた。(23節と24節)。マルタはイエスの教えを学んでおり、旧約聖書にも復活の希望が記されている。彼女は、神の偉大な贖いと回復の計画の最終段階において、神の力によってもたらされる、約束された死の眠りからの目覚めを信じていた。(イザヤ2:2; 25:6-9)。実際には、この「日」の長さは千年であり、人類の死んだ世界全体が生き返るのを見ることになる。2ペテロ3:8; 黙示録20:4, 6

私は復活であり、命である」(ヨハネ11:25)。(ヨハネ11:25)。つまり、イエスは復活の時に、天の父によって命を回復するために用いられる方だったのだ。イエスは、アダムとその民族の身代金として自らの人間としての命を捧げ、そのおかげで、死の中に眠っているすべての人を目覚めさせる権威

と力を与えられた。(1テモテ2:5と6、マタイ28:18)。
ラザロを死の眠りから目覚めさせたのは、死によって眠りにについているすべての人のために、神の計画の最終時代に成し遂げられることを示すためであった。ラザロは死後数日が経っており、肉体は腐敗し始めていた。彼の目覚めは、神の力に関する限り、人が死んでから数瞬であろうと、4日間であろうと、数千年であろうと違いはなく、「復活であり命である」方の命を与える力がその回復のために勝つという事実を鮮明に示すものであった。

最初の実であるキリスト

これまで、聖書の中で、ある者が死の眠りから目覚めた例をいくつか挙げてきた。これらは、言葉の完全な意味での復活ではなく、一時的に部分的な生命を回復したに過ぎない。これらの例は、死者をよみがえらせることができる神の力という事実を私たちに印象づけたが、完全で、完全で、永遠の死者からの復活の最初の例は、イエスの復活までなかった。

イエスの復活には、使徒パウロが復活の「最初の実り」と呼ぶものがある。パウロはこう書いている。彼は、死んだすべての人たちの大いなる収穫の最初の者なのです。死が一人の人間によってこの世にもたらされたように、死者の中からの復活がもう一人の人間によって始まったのです。私たちは皆アダムに属しているので、皆死んでしまいますが、キリストに属する者は皆、新しいいのちを与えられます。"(1コリント15:15)(第1コリント15:20-22)。つまり、すべての人は、従順に基づいて、完全な人間生活への完全な回復の機会を与えられるのである。

イエスが死者の中からよみがえられたとき、イエスは天の住まいと神の性質へと高く昇華された。パウロはエペソ4:8でこのことに言及している。"高みに上られたとき、多くの捕われ人を捕らえ、人々から賜物を受け取りました。"この詩は詩篇68篇18節を指している："高く昇られ、多くの捕われ人を取られました。"この "多くの捕らわれ人 "とは、いわゆる復活の "後の実り "のことで、囚人、この場合は死の囚人の解放に例えられている。なんとという数の捕虜だろう！

彼らはイエスの足跡をたどる者たちであり、聖書では「初穂」の階級と表現されている。なぜなら、彼らはイエスと結びついて、人類の残りの世界を祝福するからである。ヤコブはこれらについてこう書いている：「ヤコブは、これらの人々について次のように書いている。"御自分の意志で、真理のこトばをもって私たちをお生みになりました。(ヤコブ 1:18)。ヨハネの黙示録は、彼らが"最初の復活"を遂げ、キリストと共に千年生き、支配すると語っている。(黙示録20:4と6)。彼らは、イエスによって死の牢獄から導かれた最初の者たちである。彼らは、イエスと同じように、天の住まいへと引き上げられ、栄光と誉れと不死へと導かれるのである。ローマ2:7

地の王侯

復活のイエスによって導かれる死の捕われ人のもう一つのグループは、詩篇45:16で「忠実な古代の先祖たち」と呼ばれている人々である。彼らは "全地の君主 "とされる。へブル人への手紙第11章で、使徒はこれらの人々の名前を挙げ、試練の下での彼

らの忠実さについて述べている。彼は、彼らが主のために苦しみを耐え忍んだのは、"より良い復活を得るためである"と説明している。ヘブル11:35

これらの人々は、その偉大な信仰のゆえに神に喜ばれ、つまり"より良い復活"を受けるにふさわしいという保証を受けたと知らされる。この復活は、人間の生命を瞬時に完全なものへと引き上げるものであり、完全な人間として、メシヤ王国における神なるキリストの目に見える地上的代表となるのである。(ヘブル11:39-40)。預言者イザヤは、その時、ヤコブは再びその子らを見、その顔はもはや老いて青白くなることはないと告げている。イザヤ29:22-23

命の偉大な回復者によって、自由と命へと導かれる死の捕われ人のもう一つのグループは、黙示者が"大群衆"と表現しているものである。彼らは衣を洗い、小羊の血で白くした。それゆえ、彼らは神の御座の前において、昼も夜もその宮で神に仕えている。黙示録7:9、14-15

この大群衆のクラスは、初穂であるイエスの忠実な足跡をたどる者たちのように、主とともに玉座の「上」に座るのではなく、玉座の「前」にいて、昼も夜も神の神殿で神に仕えることに注意すべきである。メシヤ王国における彼らの奉仕がどのようなものであるかはわからないが、それがどのようなものであれ、まず第一に、死者の中からよみがえる必要がある。

総復活

墓から導き出される死の捕われ人の最後の集団は、これまで生きてきた全人類の残り的大集団である。このグループには、不信仰のうちに死んだ者、部分的な信仰（ ）のうちに死んだ者、犯罪者、高慢で利己的な者、子供たち、そして聖書の教えの基本的な基礎を理解することなく死んだ何百万、何千万という人々が含まれる。イエスを信じていると言いながら、その信仰を口先だけで、現世では神に完全に身をささげようともせず、犠牲を払おうとしなかった人々も含まれる。

他の多くの訳では、これらの者は死から "裁きの復活に至る"と書かれている。(ヨハネ5:29)。神の計画では、メシア王国と約束された千年の審判の日は同時に進行するからである。それは、使徒パウロが語った、主が義をもって世を裁かれる「日」である。使徒17:31

イザヤ書26章9節は、主の裁きが地に及ぶとき、世界の住民は義を学ぶと宣言している。詩篇の作者はこのことを、主がその真理をもって人々を裁かれることとして語っている。それはなんと幸せなことだろう：「天は喜び、地は喜び、海は鳴り響き、その中にあるすべてのものが喜ぶ。天は喜び、地は喜び、海は鳴り響き、その中にあるすべてのものが喜ぶ。主が来られるからだ。主は地を裁きに来られる。主は世を正しくさばかれ、民を忠実にさばかれる」詩篇96:11-13

身代金返還

イエスはご自分を全人類の「身代金」とされた。(1テモテ2:5-6)。イエスが死の捕われ人を導き出すことができるのは、このためなのだ。イザヤは、

人類の世界が捕囚から連れ戻される幸福な時について書いている。イザヤはこう言った。"主の身代金を受けた者たちは、歌と永遠の喜びをもって帰って来る。イザヤ書35章10節

旧約聖書ではヘブライ語の「シェオール」、新約聖書ではギリシャ語の「ハデス」が、聖書の中で、すべての人間が死ぬときに入る大きな牢獄、死の眠りを表す言葉として使われている。黙示録1:18でイエスは、自分が死んでいたこと、つまり、世の罪（ ）のために死んでいたこと、そして今は生きていて、「地獄（ハデス）と死の鍵」を持っていることを語っている。ここにまた、死者が囚われの身から解放放たれるという考えがある。イエスはやがて、その囚われの門の鍵を開け、大きく揺り動かし、死の囚人を目覚めさせ、解放するのだ。

すべての人が解放され、永遠の命に値する人々が神の義の原則に忠実であることを示し、人間としての完全さを取り戻したとき、冒頭の聖句にあるように、「もう死はない。かつてのものは過ぎ去り」、死の最後の捕われ人は解放され、地上の神の子としての完全な自由を回復するのである。黙示録21:4-7

これが、死によって眠った者たちの最初の実りであるイエス・キリストの復活の完全な意味である。

2025年、世界はまだ混沌と暗闇の中にあるが、人類が死から解放される喜ばしい新しい日は近づいている。この輝かしい展望を喜ぼう！